

令和3年度地域とともにある学校づくり推進協議会 会議録

【日時】令和4年2月25日（金）18：30～20：00

【場所】周南市役所1階多目的室

・出席者 18名

立部会長、磯村委員、田中委員、坂根委員、井上委員、中野委員、戸倉委員、吉村委員、石田委員、布施委員（コミュニティ・スクール・アドバイザー 以下「CSAd.」と示す）財間委員、藤本委員、神杉委員、久行委員、上野委員、杉田委員、長岡委員、黒崎委員

・指導者 1名

山口県地域連携教育エキスパート 木本育夫

・オブザーバー 3名

山口県教育庁地域連携教育推進室 指導主事 中野大輔

山口大学教職大学院学生 光市立室積中学校 教諭 宮内朋子

山口大学教職大学院学生 周南市立熊毛中学校 教諭 石井岳文

1. 開会

事務局 皆様こんばんは。本日はご多用の折、本会にお集まりいただき誠にありがとうございます。ただいまより、令和3年度第2回周南市地域とともにある学校づくり推進協議会を開催いたします。開催にあたり、周南市教育委員会学校教育課長 魚谷 祐司がご挨拶を申し上げます。

課長 学校教育課長の魚谷でございます。

本日は、遅い時間に、また、ご多用の中、お集まりいただきありがとうございます。

本日は第2回目の協議会でございます。第1回目の協議会で関係各課から紹介のあった子どもに関する事業の進捗をご報告いただき、来年度以降の取組の参考にさせていただきます。また、協議会後半では、来年度以降の周南市コミュニティ・スクールの新たな10年を迎えるにあたって、周南市教育委員会として構想を練っている推進の柱についてご協議いただく予定です。

さて、本市では、平成24年度から全小・中学校をコミュニティ・スクールに指定し、10年目を経過しようとしております。これまで、関係する方々のご尽力により、各学校また中学校区において、コミュニティ・スクールへの理解が進み、各地域の特色を生かしたさまざまな取組がなされ、成果が表れておりますことに、厚くお礼申し上げます。

「子どもの夢に寄り添い『生き抜く力』を育む周南の教育」の理念のもと、今後、周南市で推進するコミュニティ・スクールの理念や各学校での地域連携教育が子どもたちの健全な育成につながっていくよう、強く期待するところであります。

本日は、それぞれのお立場で各地域の中心となってご活躍中の皆様に「地域とともにある学校づくり」についてご協議いただき、各地域における取組の更なる充実や市内全域の理解の深まりにつなげてまいりたいと考えております。

このたびも、山口県地域連携教育エキスパートの木本 育夫（このもと いくお）様にもオブザーバーとしてご参加いただいております。ご指導よろしくお願いたします。

最後になりますが、本協議会委員の任期は1年でございます。この場をお借りして、立部会長様はじめ、委員の皆様にお礼申し上げます。委員としてご協力下さいまして誠にありがとうございました。

限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願いたします。

2. 会長あいさつ

事務局 続きまして、本協議会会長であります、徳山大学経済学部准教授、地域共創センター長 立部文崇（たてべふみたか）様に一言ごあいさついただきます。立部教授、よろしくお願いいたします。

会長 みなさまこんばんは。徳山大学地域共創センター長の立部と申します。本日も皆様にこのようにお会いできたこと、皆様のお顔を拝見でいたことをよかったなと思っております。ただ今学校教育課長からのお話にもありましたように、本会議に前回参加させていただいた時に、行政各課の方が様々なことをこの一年考えてくださっているということをしみじみと感じた次第でございます。今日はそのことについてご報告いただけるということですので、どんなことができてもいいことが難しかったのかお伺いしながら、私自身も考えることができるだろうと、今ご挨拶させていただいております。大きな理念というものは一朝一夕に達成できるものではないと思いますので、このように皆様とお会いしてお話しさせていただくことを通して、より良いものにしていくことができると思っています。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

3. 諸連絡

事務局 ありがとうございます。

続きまして、諸連絡をいたします。

- ・木本エキスパートの紹介（最後に指導助言依頼） ※山口県地域連携教育エキスパート
- ・配布物の確認 ※各自で確認
- ・自己紹介の省略 ※限られた会議時間のため、要項内の委員一覧に替える。

それでは、ここからの議事進行は会長の立部様にお願いいたします。

4. 所管説明

会長 それでは、学校教育課から所管説明をお願いします。

事務局 所管説明資料1ページをご覧ください。今年度、周南市のコミュニティ・スクールにおける重点課題を、

- ・学校運営協議会の子どもの意見を生かした活動の計画・実施
- ・自校がコミュニティ・スクールであることを児童生徒が認知すること

の2点とし、その課題解決のためのアクションプランをご覧のとおり立てて推進を図りました。今後、今年度の周南市におけるコミュニティ・スクールの取組をしっかりと振り返るとともに来年度以降のコミスクの取組を充実させていきます。

平成24年に周南市全ての小・中学校がコミュニティ・スクールとなってから10年を経過し、来年度から新たな10年がスタートすると捉え、周南市教育委員会といたしましては、現在、新たな推進の柱を検討しております。お手元の所管説明資料で、現時点での案を皆様にお示しいたします。ポイントについて、布施アドバイザーから説明をいたします。

C S Ad. 所管説明資料2枚目の裏を御覧ください。

学校教育課の立場から、CS10年を経た今、今後のコミュニティ・スクール、地域連携教育を考えてみました。周南市教育振興基本計画に基づき、これからを考え、改めて描き直してみたものが推進の柱です。

そこにありますように、基本的な姿勢を「子ども達の夢に寄り添いながら学びや育ちを社会全体で見守り支えることができる環境をつくる」としており、周南市総掛かりで子どもたちの育成を働きかけていきたいと考えています。

目指す目標は、「ふるさと周南」の自然や歴史、伝統や文化に誇りと愛着をもち、高い志を

抱いて社会で活躍し、力強く自らの未来（あす）を拓く子どもの育成であり、図のように3つの視点に分けて目標達成の具体的な活動目標を考えました。

「地域学習をつくる」では、ふるさと周南」の自然や歴史、伝統や文化に誇りと愛着をもつ、に対応して、地域の人、もの、ことと関わりながら、学年を越えたテーマをもって学習を組み立てることを示しています。学習活動が点ではなく線や面でつながっているイメージをもっています。

例えば、SDGsの17の目標を組み合わせて地域課題を考えていくことを例にすれば、学年を越えて一つのテーマを追う姿を線、理科や社会、家庭科等で学ぶ教科の内容を土台にしてテーマ内容を考える教科等横断的な学習となることを面と表現しました。

小学校の場合4年生までは、様々な機会での地域の方とのふれ合いを大切にし、その後地域のことにテーマをもって学習することが考えられます。

「キャリア教育を計画する」は高い志を抱いて社会で活躍するに対応しています。①で示す学習活動を進める中で、子ども達が身に付けていく資質・能力があると考えています。

例えば、活動自体に多様な人との関わりがあり、学習を通して自分の考えや相手の考えを交えて、自分たちの意見を磨いていくコミュニケーション力等や、次第に関わる範囲が広がり自分と他者との関係性を考えたり、社会の中でどう生きていくかを考えたりする社会性にもつながります。また、課題を見つけて学習することから課題解決する力との結びつきも考えられます。このようなキャリア教育（職業的、社会的な自立を目指した教育）の中で整理されている諸能力を、学習活動を行うなかで身に付けさせることを意識して組み立てることが考えられます。

「主体性を育む活動を実践する」は、力強く自らの（あす）を拓く子ども、に対応しています。子ども達自身が主体的な生き方を身に付ける為には、学習活動がいかにか子ども達の主体性を生かすものになっているかが大切であると考えます。学校や地域の大人達が作ったルールの上に乗るだけでなく、自分たちがどうしたいかという判断をもつ子どもの意見を大切にする場面をつくりながら、子ども達の力で前に進めさせる取組にしていくことが必要と考えられます。

以上のことを意図し作り上げる学習計画は、学校・地域連携カリキュラムと呼ぶもので有り、地域とともにある学校づくりの根幹を成すものと位置づけています。地域の全ての団体や関わり合う大人が惜しみなく支援することが、これからの周南市の地域とともにある学校を一層意味あるものにしていくと考えています。以下の図は、学校や行政が取り組む推進の視点を示しています。以上がCSを統括する学校教育課の立場で、「社会に開かれた教育課程」の視点から考えるこれからの地域連携教育の姿です。

後ほどの協議では、皆さん方の立場から見える地域連携推進の考え（例えば 校長会長さんであれば、学校運営や校長会組織の立場から、学校運営協議会長さんはその役職の内容や会議の運営の在り方、学校と地域の関係など、地域学校協働活動推進委員さんは、自分の役割や学校や地域の方とのつながり方、人材の発掘等の視点、PTA 連合会長さんは保護者やPTA組織として、大学はこれからの小中学校との関わり方等について、行政各課はそれぞれが学校や子ども達とのつながり方の視点で）これからの地域連携教育やコミュニティ・スクール像について意見を出し合っていただき、多面的で幅広い可能性をもった将来像を見つけていきたいと考えています。

事務局 以上で、学校教育課からの所管説明を終わります。

5. 事業報告

会長 続きまして、本協議会委員であります周南市各課担当から、本協議会第1回目で紹介がありました令和3年度の子どもの関する事業の報告をお願いします。

それでは、まず、周南市教育委員会生涯学習課からお願いします。

<周南市教育委員会生涯学習課>

(「家庭教育支援チーム」の取組と「放課後子ども教室」についての報告)

会長 ありがとうございます。次に、周南市教育委員会人権教育課から説明をお願いします。

<周南市教育委員会人権教育課>

(「ハートフル人権セミナー」についての報告)

会長 ありがとうございます。続きまして、周南市地域づくり推進課から説明をお願いします。

<周南市地域づくり推進課>

(「地域の夢プラン」のうち、子どもに関する内容についての報告)

会長 ありがとうございます。それでは、周南市次世代政策課から説明をお願いします。

<周南市次世代政策課>

(所管する研修会の説明と「こども食堂」における取組の報告)

会長 ありがとうございます。続いて、周南市子ども支援課から説明をお願いします。

<周南市子ども支援課>

(「幼保小連携」における取組の報告)

会長 ありがとうございます。続きまして、周南市地域福祉課から説明をお願いします。

<周南市地域福祉課>

(「いきいき百歳体操」の取組の報告)

会長 ありがとうございます。最後になりましたが、周南市あんしん子育て室から説明をお願いします。

<周南市あんしん子育て室>

(「オレンジリボンキャンペーン」の取組と学校対象の「性教育」授業についての報告)

会長 ありがとうございます。続きまして、グループ協議に入ります。このたびは、先ほど学校教育課の所管説明でありました、来年度以降の推進の柱に関してグループで協議をしていただきます。協議内容について、学校教育課から説明願います。

6. グループ協議

事務局 先ほど、学校教育課としての来年度以降のコミュニティ・スクールの推進の柱の案はお示しいたしました。しかしながら、これはあくまでも学校教育課の立場の考えであり、皆様方のような様々なお立場での視点でこれからのコミュニティ・スクールを考えていくことも必要です。

そこで、本協議会委員皆様のお立場での思いをお伺いしたいと思います。

これまでのご経験や今年度のお取組を通して感じてこられたことなどを踏まえ、「これからの周南市コミュニティ・スクールに何を期待するか」等、忌憚なく意見交換していただければと思います。グループは開催要項表紙裏の委員名簿をご参考ください。

19:45になりましたら、各班代表から1分程度で簡単にご発表いただきますので、班で代表を1名お選びください。特に司会を定めてはおりません。自己紹介を皮切りに、協議を進めていただければと思います。それでは、机を移動させて班を作って、協議を始めてください。

協議班A (協議内容記録省略)

協議班B (協議内容記録省略)

協議班C (協議内容記録省略)

会長 時間になりましたので協議をおやめください。それでは、話し合われた内容について、各班1分程度で簡単にご発表いただきます。それではA班からお願いします。」

A班 これまでのコミスクの取組の中で見えた様々な課題を解決していくことが、次の10年の目標である。子どもが感じる時間の長さで大人が感じる時間の長さは違う。そういった点を考えると、子ども達の意見をどのように取り入れていくかを考えていくことが大切なのではないか、という話になりました。

会長 ありがとうございます。B班お願いします。

B班 子どもたちをいかにこのコミスクの流れの中に巻き込んでいくかが重要だ、との話になりました。それが、子ども達にとっては自己肯定感を高めることにつながっていくだろうから、主体性を育むことにもなるだろうし「こんな学校にするんだ」「こんなことをするんだ」と場合は、それがキャリア教育につながっていくことにもなるだろうという話でした。また、地域の方をもっともっと積極的に引き入れて、学校に関わっていただくこと、ICTの有効活用も含めて、これからの取組の在り方を考えていく必要があるという話になりました。地域学習については、「どんな学校にしていきたいか」ということを子ども達が話し合っ、それを追求していくプロセスに、地域の方のお褒めの言葉をいただいているような地域学習を、より多様な方々に関わっていただきながら進めていくとよいのではないかと、といった話になりました。

会長 ありがとうございます。C班お願いします。

C班 この10年間があったからこそできたのではないかと話をしました。コロナがあったからこそ、これまでの10年間の取組を再考することができたのではないかと。それを次の10年に生かしていけばよいのではないかと話になりました。その中で、原点に戻って、取組についてしっかりと考えていく必要があるとの話になりました。今後の10年で、ゆるがない、地域に根差したコミスクを作っていくようにするのがよいのではないかと、という話になりました。

会長 ありがとうございます。この度の協議の内容について、今後のご活動に生かしていただければと思います。ここで、本日ご参会いただきました木本エキスパートからご講評をいただきます。木本先生お願いいたします。

7. 受指導

木本 Exp. こんばんは、木本です。私はこの周南市のコミスクに関わって7年になります。平成27年に今の地域学校協働活動推進員さん14名いらっしゃいますが、この研修会に参加させてもら

ったのがスタートでした。その頃から地域学校協働活動推進員さんの研修会をやっているのは周南市だけでした。周南市の強みは、研修がすごいということです。様々な立場の研修をしっかりとやられています。そしてその中に、こういった立場の違う方が一堂に会しての研修会、これなかなかやっているようでやっていないです。これもすごいと感じます。それから、本協議会には行政のお立場の方が参加されています。子ども達に関係する行政各課、そういった方もコミスクに関係する会議に出ている市は他にありません。これも素晴らしいです。そういった強みをしっかりと生かしてほしいと思います。

「学校の敷居が高い」という意見は多いです。どの地域でもそういった意見はあります。これは、学校が待っていてはだめですね。学校が敷居を下げた地域に出なければいけません。これは校長先生をはじめ、学校の先生方の意識にかかっています。

高等学校もコミスクが始まったので、幼保小中高との連携も大事だという意見もあったように思います。確かに大事だと思います。せっかく小中学校で地域とつながった活動や学びを進めてきたのに、高等学校に入ると切れてしまう。これはもったいないです。それをしっかりと生かして大人にしていく。これが今からの課題かなと思います。そのためにはどうしたらよいか。この会議に、高等学校、支援学校の校長先生、また幼保小の代表の先生が参加する。それによって、今コミスクでしていることを皆で共通理解する。それも一つの方法かなと思います。

学校運営協議会の役割は何だと思われませんか。それは「魅力ある学校づくり」です。その地域・学校の特色を生かした学校づくりですね。それが役割です。学校の先生は毎年同じことやりがちです。そこに新しい考えを入れることによって新しい学校を作っていこうとする、魅力を作っていこうとすることが一つの役割です。そのためには、地域学校協働活動という活動と一体になって進めていくことが大切です。学校運営協議会では学校をよくするために様々な協議がされていると思います。決めたことを実践するのが地域学校協働活動です。学校が地域と一緒に子どもたちに体験活動をさせてあげる。それをつないでいかないとはいけません。それをつないでいくものが何かと言うと、学校・地域連携カリキュラムです。それは、地域と学校が協力して行われている様々な学習活動を「見える化」したものです。それを作って終わりではなくて、実際にやっていることで、さらに、何のためにやっているのか、皆さんで「どういう学校を作ろう」、「どういう子どもたちを育てよう」といった共有されている内容と結び付けてあげればよいのです。活動したら、評価・改善が必要です。実践して評価をして改善するサイクル、これを今から作っていくことが大切だと感じます。その時に、地域の人と学校の先生がよく話をする。それが大事なのです。つながることです。その時に、子ども達に「どうだった？」と意見を聴くことも大事です。その意見を取り入れることで、子ども達の関わりが生まれてきます。これで、学校、地域、子ども達のすべてが関わるのが実現します。そのシステムを学校でどのように作っていくか、それを考えていくことがこれから大切になると思います。その中で新しい活動を作っていくことも大切です。それが、「社会に開かれた教育課程」に相当するものなのだと思います。ぜひみなさん意識して取り組んでほしいと思います。

地域学校協働活動は一般の人にとっては難しいです。なかなか地域に浸透しない。地域に対して分かりやすく説明してあげることも必要だと思います。そうしないと、地域の方も関わってくれません。

地域が、「子どもにこうなって欲しい」という思いをもっているか。また、それを望む、言う大人が子ども達にその姿を見せているかどうか。子どもの手本としての姿を見せることができているか。大人も勉強、学習しないといけないです。子どもに、地域を好きになって欲しい、誇りをもってほしいと思うならば、誇りの持てる地域を作らなければいけません。子ども達を良くしたいのならば、地域も学校も保護者も一緒に学んでいかなければなりません。みんなが学んで、子ども達を育てながら地域を活性化しよう、地域をよくしよう、ということにつながっていくと思いますので、そういった点を意識して、皆様できるところから協力してやっていかれたら良いのではないかと思います。

これからもよろしく願いいたします。今日は大変楽しかったです。どうもありがとうございました。

会長 ありがとうございます。ここで、議長解任とさせていただきます。

8. 閉会行事

事務局 立部会長、どうもありがとうございました。最後に、会長の立部先生からお話をいただきます。

会長 皆さん本日はどうもありがとうございました。木本先生から「楽しかったです」とお言葉がありました。私も大変勉強になりました。先程、地域と一緒に作っていくカリキュラムのお話がありましたが、私が在籍する徳山大学、この4月から周南公立大学になります。より地域に貢献できる大学になっていきたいと思っております。どのように貢献できるかなと考えてみましたところ、例えば、地域の中で何かを学んでいくということについて、我々はそれぞれの専門性を有しておりますので、活動に一味付けるといった関わり方ができるのではないかと思います。私は本業が言語学者でありますので、例えば方言ですね。方言は、だいたい小学生中学生ぐらいまでが使用頻度が高く、そこから一旦落ちます。多様な社会とつながる中で方言の使用は落ちてくるのだと考えています。その後、40代50代ぐらいになって使用状況が上がってくるという傾向があります。そういったようなちょっとしたエッセンスを加えることで、加わっていただける地域の方にも「おもしろい」と思ってもらえるような学びのカリキュラムというものが作れたら面白いのかなと思います。

先程「小中校と連携して」というお話がありましたけれども、どうかそこに大学を加えていただき、「小中高大」のつながりができるといいなと思いました。

事務局 どうもありがとうございました。

本日は、本協議会にご参加いただきまして誠にありがとうございました。このたびご協議いただきましたことが、今後の周南市のコミュニティ・スクールの発展につながる一助となりますことを願っております。また、所管説明でお示ししました、周南市における新たなコミュニティ・スクールの推進の柱で、新しい10年を踏み出すことができますよう、今後とも皆様のご協力を賜りたいと思います。なお、皆様の本協議会委員としての任期は1年でございます。本会以降お会いできないこともあろうかと思っておりますので、この場をもって、お礼申し上げます。立部会長様、委員の皆様、1年間のご活動ありがとうございました。来年度もお声をかけさせていただくこともあろうかと思っております。その際はご協力よろしく願いいたします。

以上で地域とともにある学校づくり推進協議会を終了します。皆様お身体ご自愛いただきますとともに、お帰りの際には、交通安全に十分にお気をつけください。お疲れ様でした。



周南市教育委員会

周南市のコミュニティ・スクールにおける重点課題

重点課題① 学校運営協議会の子どもの意見を生かした活動の計画・実施

重点課題② 自校がCSであることを児童生徒が認知すること

令和3年度の重点的な取組について（4つのアクションプラン）

教職員へのアクションプラン

- 1 核になる学校担当者（地域連携担当教職員等）のスキルアップ
 - ・コミュニティ・スクールを全教職員が意識し、地域と協働できる体制を構築する。
 - ・「学校・地域連携カリキュラム」への意識を高め、今年度中に各学校のカリキュラムを作成する。
 - ・地域連携担当者研修会の持ち方を工夫する。

児童生徒へのアクションプラン

- 2 児童・生徒のコミュニティ・スクール認知・理解の向上と学校運営協議会での児童・生徒の意見を元にした協議の充実
 - ・各学校のコミスクプレゼンを効果的に活用する。
 - ・生徒会や児童会と連携した、コミュニティ・スクールについて学ぶ場を設定する。
 - ・地域社会や学校の課題について、児童・生徒の意見を交え、協議の活性化を図る。

地域学校協働活動推進員へのアクションプラン

- 3 核になる地域担当者（地域学校協働活動推進員等）のスキルアップ
 - ・地域学校協働活動推進員会議（年2回）の開催で資質向上をねらう。
 - ・各中学校区でのコーディネーター間のつながりを強める。
 - ・中学校区を越えた推進員間の横のつながりや高校のCS活動推進員とのつながりをつくり、周南市内の地域学校協働活動のレベルアップを図る。

新型コロナウイルス感染症へのアクションプラン

- 4 新型コロナウイルス感染症予防を行いながら、実践するコミュニティ・スクール
 - ・このようなコロナ禍においても、地域と学校がつながり続け、地域学校協働活動を持続できるような工夫をする。

周南市「地域とともにある学校」づくり推進の柱（令和4年度～）

～子どもたちの夢に寄り添いながら学びや育ちを「社会全体」で見守り支えることができる「環境」をつくるための3つの柱～

「ふるさと周南」の自然や歴史、伝統や文化に誇りと愛着をもち、
高い「志」を抱いて社会で活躍し、

（周南市教育振興基本計画 基本理念・基本方針より）

力強く自らの未来（あす）を拓く子どもの育成

①地域学習をつくる
（Produce）

②キャリア教育を計画する
（Planning）

③主体性を育む活動を実践する
（Practice）

I 地域連携に関わる各種研修の推進

- 1 地域連携推進のキーパーソン対象の研修会
- 2 若手教職員対象の研修会
- 3 校内での研修会

II 子ども主体による取組の推進

- 1 コミュニティ・スクールの取組の認知・理解
- 2 児童生徒が提案する地域学校協働活動

